

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	金融論 (Financial Theory) 392071-14120					担当教員	牧野 智一 (マキノ トモカズ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	資格対応科目／知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
<p>金融論とは、貨幣に関する様々な経済現象について考える学問である。金融というと銀行などの金融機関を想像すると思われるが、金融論では貨幣が及ぼす企業活動や私たちの生活への影響と金融政策の効果について学んでいく。</p> <p>本講義は、貨幣が果たしている役割と私たちの生活や経済に与える影響について理論を中心に学修する。本講義の最終的な目的は、金融に関する理論を身につけた上で、金融政策の効果について、自らの判断で考察する能力を養うことである。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
講義形式の授業を行う。各回の授業内容は関連しているため、十分な復習をした上で授業に臨むこと。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「マクロ経済学」「ミクロ経済学」の知識を有すること。									
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安									
<ul style="list-style-type: none"> (i) 授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者に適切に説明でき、その知識をある程度応用することができる。 (ii) 伝統的な金融政策の手段を他者に適切に説明でき、金融政策の貨幣市場への影響を他者にある程度説明できる。 (iii) 金融政策の経済への効果を短期・長期の視点から、他者に適切に説明できる。 									
⑥ テキスト（教科書）									
家森信善(2019)『ベーシックプラス 金融論（第2版）』中央経済社									
⑦ 参考図書・指定図書									
竹内信仁編(2013)『スタンダードミクロ経済学』中央経済社									
竹内信仁編(2013)『スタンダードマクロ経済学』中央経済社									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 金融論の基礎的な知識（貨幣の役割や定義、金利の重要概念や金利の経済への影響等）	授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者に適切に説明でき、その知識を適切に応用することができる。	授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者に適切に説明でき、その知識をある程度応用することができる。	授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者に適切に説明できる。	授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者にある程度説明できる。	授業で取り上げた金融論の基礎的な知識を他者にほとんど説明できない。
(ii) 金融政策の手段についての知識と貨幣市場の分析能力	金融政策の手段と金融政策の貨幣市場への影響を他者に適切に説明できる。	伝統的な金融政策の手段を他者に適切に説明でき、金融政策の貨幣市場への影響を他者にある程度説明できる。	伝統的な金融政策の手段と貨幣市場の分析について他者に適切に説明できる。	伝統的な金融政策の手段と貨幣市場の分析について他者にある程度説明できる。	伝統的な金融政策の手段と貨幣市場の分析について他者にほとんど説明できない。
(iii) 金融政策の経済への効果の分析能力（短期と長期の分析等）	金融政策の経済への効果を短期・長期の視点から、他者に適切に説明でき、現実の金融政策の意図を考察できる。	金融政策の経済への効果を短期・長期の視点から、他者に適切に説明できる。	金融政策の経済への効果を短期・長期の視点から、他者にある程度説明できる。	金融政策の経済への効果を短期・長期のいずれかの視点から、他者にある程度説明できる。	金融政策の経済への効果を短期・長期のいずれの視点から、他者にほとんど説明できない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%					30%		100%
(i) 金融論の基礎的な知識	20%					10%		30%
(ii) 金融政策の手段についての知識と貨幣市場の分析能力	25%					10%		35%
(iii) 金融政策の経済への効果の分析能力	25%					10%		35%
フィードバックの方法	試験結果の得点分布等を公表する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
昨年度に引き続き、学生諸君が授業内容を理解しやすいように、わかりやすい表現と丁寧な解説を心掛けて授業を行う。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	金融論とは	ミクロ経済学とマクロ経済学の知識の見直し	60分
2	貨幣の役割	貨幣の役割に対する理解	60分
3	貨幣と物価の関係	貨幣と物価の関係についての考察	60分
4	金利の重要概念①（単利と複利）	単利と複利の違いによる影響の理解	60分
5	金利の重要概念②（実質利子率と名目利子率）	実質利子率と名目利子率の関係と経済への影響の理解	60分
6	利子率の決定要因	利子率の決定要因についての理解	60分
7	利子率と債券価格	利子率と債券価格の関係についての理解	60分
8	マクロ経済と金融政策	マクロ経済と金融政策の関連についての理解	60分
9	金融政策の手段	金融政策の手段の整理	60分
10	貨幣供給	貨幣供給についての理解	60分
11	貨幣需要	貨幣需要についての理解	60分
12	貨幣市場の分析	貨幣市場の分析方法の習得	60分
13	金融政策の短期効果	金融政策の短期効果についての理解	60分
14	金融政策の長期効果	金融政策の長期効果についての理解	60分
15	まとめ	各回の講義内容の整理と理解	60分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。各回の授業に対するコメント（感想・質問等）を学生諸君よりもらい、翌週の授業で可能な限りコメントに対する回答を行い、学修効果の向上に活用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性